

基調講演「科学リテラシーと地球環境問題」

科学リテラシーの「リテラシー」はもともと読み書き能力。科学リテラシーは、科学の常識とその活用の能力。

地球環境問題の土台は、科学的な事実である。とすると、地球環境問題を読み解くためには、あるいは地球環境問題の教育のためには、ある程度の科学的事実を理解できなければならない。これからの社会を見据えて、どんな認識があるとよいか、それが大人（一般市民）のための科学リテラシーである。

JST「市民の科学技術リテラシーとしての基本的用語の研究」（研究代表：左巻健男）や集団的に作成した地球環境問題のテキスト『地球環境の教科書 10 講』（東京書籍）の成果もふまえて一緒に考えたい。

左巻健男（さまき・たけお）同志社女子大学現代社会学部現代こども学科教授

1949 年生。千葉大学教育学部理科専攻卒業、東京学芸大学大学院教育学研究科理科教育専攻修了。東京大学教育学部附属中・高等学校教諭等を経て現職。専門は理科教育、環境教育。著書は『地球環境の教科書 10 講』（共編著 東京書籍）、『地球環境子ども探検隊』（1 巻：ゴミ 5 巻：水 フレーベル館）、『地球環境のためにできること 第 3 巻 水がささえるいのちと地球』（フレーベル館）、『水はなんにも知らないよ』（ディスカヴァー携書）など多数。

導入講義「持続可能な社会のための環境教育」

私たちのいまの生活は大量生産・消費・廃棄型の社会経済システムにどっぷりと浸かっている。これが地球の温暖化、生命系全体の破綻へとつながっていくことは必至である。いのち豊かな地球を私たちの後々の世代にまで手渡していくためには、地球と自然の営みと人間の社会活動との調和をはかる必要がある。一人ひとりのライフスタイルを見直し、社会の仕組みを持続可能なものへと改めていく取り組みを今すぐはじめていかねばならない。この「持続可能な社会づくり」のための市民の参加と行動につながる教育のあり方について考えたい。

西村仁志（にしむら・ひとし）

同志社大学大学院総合政策科学研究科准教授、環境共育事務所カラーズ代表。

1963 年京生まれ。京都 YMCA に勤務の後、1993 年個人事務所「環境共育事務所カラーズ」を開業。自治体や企業、NPO 等の環境学習・市民参加まちづくりのコーディネーターや研修会の企画運営などを行っている。同志社女子大学生生活科学部他で非常勤講師、嘱託講師を務め、2006 年より現職。

分科会（ワークショップ）

「暮らしとつながる環境教育のデザイン」

食べること、寝ること、はたらくこと、休むこと、買うこと、捨てること、遊ぶこと、学ぶこと、……。 「暮らし」を考えた時、好むと好まざるとに関わらず、さまざまな「コト」を積み重ねていると気づきます。この分科会ではこれら「コト」の変化や変容、関係に目を向け、暮らしそのものを考えるながら、テーマを深める時間にしたいと思っています。

大滝あや（おおたき・あや）

Tao 舎 / 代表

1977 年生まれ。大学在学中より青少年活動、参加体験型学習の場づくりに関わり始める。YMCA、人間科学研究所を経てフリーランスに。以来、環境教育・市民活動などの「学びの場のデザイン」を行っている。最近は、ワークショップの企画、進行役に加え、教材開発や取材記録など「編集役」も増えつつある。

「自然とつながる環境教育のデザイン」

「気まぐれナバのインタープリテーション入門」インタープリテーション（以下 IP）とは、触れること・感じることでできるモノや体験を通して「形のない」メッセージや概念、歴史などを効果的に伝える手法です。今回は、そんな IP の基礎知識&体験に軽く触れた後、参加者自らが数分間のミニ IP の企画実践までやっつけてしまおうという欲張りな一日。「IP という言葉を初めて聞いた」「自然の知識がない」という方も大歓迎のサロン形式の気軽なワークショップです。

萩原裕作（はぎわら・ゆうさく）岐阜県立森林文化アカデミー講師

92 年来、国内外でインタープリターとして活動。斬新な切り口と遊び心あふれるプログラムが得意。99 年からはテレビ自然番組の企画制作にも携わる。第二の故郷、タスマニア島をはじめオーストラリア全土の自然を網羅したエコツアーガイドとしても活躍。現在、「人を動かす」インタープリテーションの構築を目指している。

「地域とつながる環境教育のデザイン」

「ひとつづくり」「関係づくり」「やるきづくり」を同時にみたく環境教育的「地域づくり」の切り口や発想法、方法論を学びます。参加者それぞれの問題意識や関心、「資源」を視覚化し、地域とつながる環境教育のプログラムや環境教育的アプローチによる「地域づくり」のためのプロセスをデザインしてみましょ。

永橋為介（ながはし・ためすけ）

NPO 法人コミュニティ・デザイン・センター

1969 年生東京下町生まれ。

1998 年京都大学農学研究科修了，博士（農学）。

カリフォルニア大学バークレー校客員研究員を経て現職。

市民参画による環境基本計画の策定や地域づくりのコーディネートに従事。

東京工業大学、石川県立大学非常勤講師。

共著に「環境と都市のデザイン」（学芸出版社）など。

「水とつながる環境教育のデザイン」

地球は水の惑星と呼ばれています。おかげで、多様な生物が存在してきました。一方、21 世紀は水の世紀と言われます。なぜ、今世紀は水の世紀なのでしょう。それは、多くの水問題を抱えた時代になったからで、大きく整理すると、水循環、水汚染、水の絶対量の不足です。地球温暖化も、水と深く関わっています。水環境教育から持続可能な社会について考えます。

上田 正幸（うえだ まさゆき）NPO 法人京都・雨水の会 代表理事

1977 年にインダアイテス（株）入社。2004 年常務取締役をつとめた後、退任。

1999 年、第 1 期「自然エネルギー学校・京都」を開催し、雨水利用を担当。2001 年「世界水フォーラム市民ネットワーク」の発起人となり、また「京都・雨水利用をすすめる会」（現在は NPO 法人京都・雨水の会）を設立する。2003 年に作成した水環境教育冊子「雨水くんの冒険」は UNESCO の推奨を受ける。2007 年には「水環境教育プログラム集」を発行している。